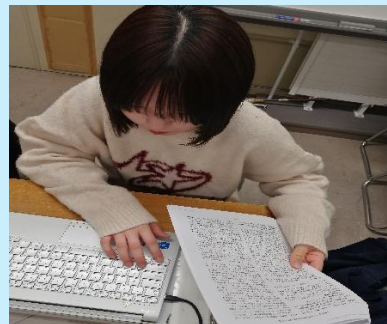


五十嵐一徳ゼミ:特別演習(2年次)

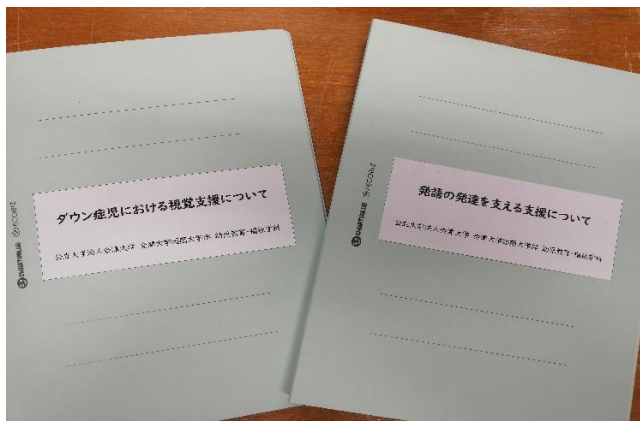
五十嵐ゼミでは4年制大学の卒業研究にも匹敵する質の高い「卒業研究論文」の完成を最終目標に掲げています。

2025年度の卒業生は、文献講読からはじまり、障害児施設へ年間14回にわたる継続的なフィールドワークを実施しました。実際に障害のある子どもたちと深く関わり、支援を行った経験を詳細な「事例研究」としてまとめ上げました。

執筆中の様子



卒論完成



20000~40000文字の卒業研究論文が完成しました。
お疲れさまでした。

卒業論文という大きな山をどう乗り越えたのか。執筆中の苦労話から、書き終えた今だからこそ言える「学び」までをインタビューしました。

壁には卒業研究論文の概要ポスターが掲示されていますが…。見えない…(;∀;)



【苦労したこと】

フィールドワーク 14 回分。分かりやすくまとめるの、至難の業すぎた……。

【学んだこと】

障害のある子どもの行動の裏側にある理由を、以前よりもずっと深く、広い視点で考えられるようになりました。ただ目の前の姿を見るだけでなく、その子の日常生活まで含めて、発達のプロセスにも目を向けて考えるようになったと感じています。

【苦労したこと】

日々の授業と並行して記録を付け続けるのは、想像以上に根気のいる作業でした。後でまとめて書こうとすると絶対に大変になる……と自分に言い聞かせて細かくメモを取るようになっていましたが、それでもやっぱり一苦労。

【学んだこと】

フィールドワークの内容をまとめる過程で、実はその瞬間には気づけなかった『子どもの行動の背景』にハッとさせられることが何度もありました。これまでの実践を定期的につなぎ合わせて振り返ることで、はじめて見えてくる学びがある。記録を読み返し、深く考えることの大切さを改めて実感しました。

